

昆虫館だより ①

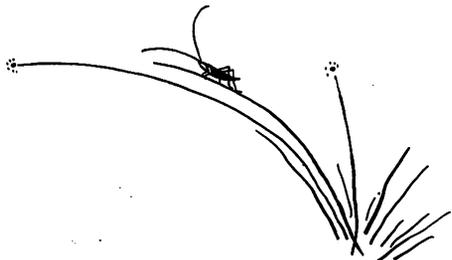
千種川グリーンライン昆虫館館長
内海 功一

ヤマムユガ科のヤマムユガ、ウス
タビガ、ヒメヤマムユ、クスサン、
オオミズアオと今年は5種の幼虫が、
そろって展示できた。

普通、オオミズアオはサナギで越
冬し、5月頃羽化、そして産卵、他
のものたちがマユを作る頃ふ化する
ものであるが、室内が暖かったため、
約1ヶ月早く羽化、産卵したため
である。ウスタビガ、ヒメヤマムユは
特に幼時が似ているもので、どちら
もまだ黒色の初期をねらって採集し
たものである。

いま、エンマコオロギ、エゾスズ、
そして本年2回目のスズムシが鳴い
ている。鳴かないが夏もののコバナ
イナゴ、オオナナフシは産卵期であ
る。越冬もののクビキリ、ツチイナ
ゴも6月には寿命を全うすることだ
ろう。

クワエダシャクは下旬には発泡スチ
ロールの台をかじり、サナギになっ
ていた。他に、水生もの、大型甲虫
など、総勢約60種が、6月～7月に
向っている。 S.51. 5. 31



会報発刊によせて

姫路市立科学館館長
丸尾 準治

姫路昆虫同好会結成、会報発刊おめでとう
ございます。

無風のひるさがり、太陽の光をいっぱい全
身にうけて飛ぶチョウは、ながめるひとに自
然の美しさを、いやおうなしに教えてくれま
す。しかし、近年この風景も、わたくしたち
の周辺ではあまり見られなくなっていくよう
に思えます。

自然の中でひとに、季節感を教え、風景を
豊かにし、生物の世代繁栄に働く昆虫類への
愛着がよりいっそう強い皆さんの集いに参加
して深い感銘を受けました。

わたしたちの科学館は、市民の皆さんに科
学思想を啓蒙していくことと、小中学校での
科学教育を援助していくことにつとめていま
す。科学館での展示活動はその中での重要な
ものの一つです。特に10月に開催している市
内小中学生の科学作品展には、数百人の出品
があり、数千人の参観者をむかえて、科学へ
の認識を深めてもらっています。

今までの作品展で昆虫部門には、いろいろ
の出品があって播州地方の自然のうつりかわ
り、ようすがうかがえる資料もたくさん含ま
れています。アゲハチョウ科をとりあげても
本州で生そくしているといわれる11種類
が採集地、採集年月日が名記され出品されま
した。わたしたちは、これらの資料を有効に
使えるように整理しなくてはならないと考
えています。その節は虫のよい話ですが、ご
協力をお願いしたいと思っています。

また、科学館主催で書写山の生物観察・採
集指導会、小赤壁海岸での磯の生物観察・指
導会も開催し、小中学生とその保護者の皆さ
んに自然を研究していただく機会をもうけて
います。